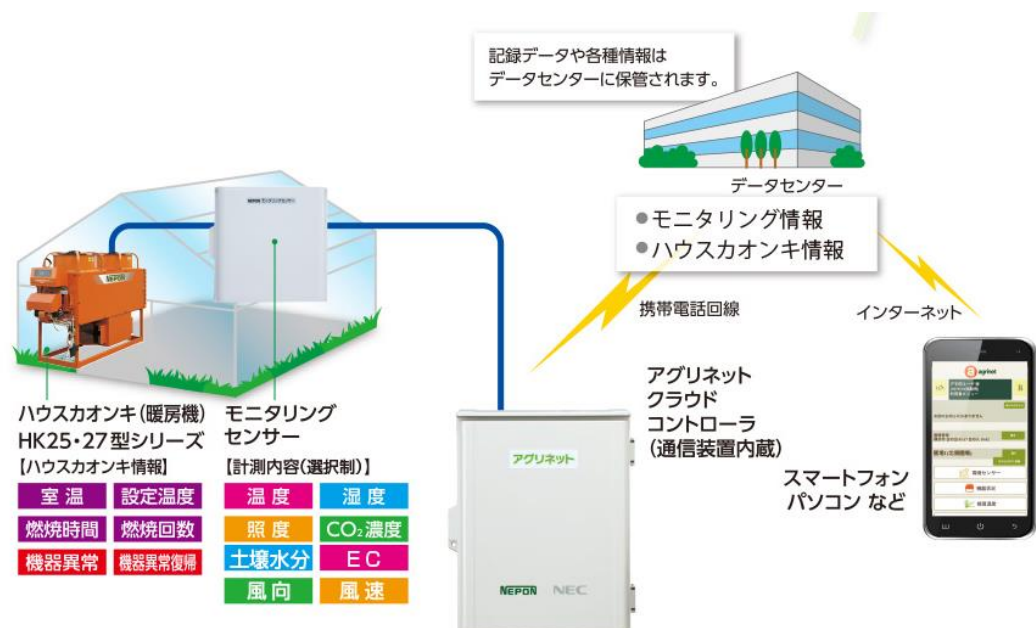


# アグリネットによるハウス環境の見える化

## ■ 概要

ハウス内の栽培に適した環境にするために必要な要素（温度・湿度・照度・CO<sub>2</sub>濃度等）を測定し、1日のハウス内環境変化の流れを数値・グラフ表示することにより経営管理に役立てる。スマートフォンやパソコンでも遠隔管理が可能。

また、グループ内でのコミュニケーション機能もあり、お知らせや市況情報、生産マニュアル等の情報共有が行える。



(出典：ネポン（株）HP)

## ■ 期待できる効果

- ・ 機械の手動運転からセンサー値と設定値に基づく自動運転を行うことにより、作業時間の省力化、作業時間の短縮が見込まれる。
- ・ 温度や湿度、CO<sub>2</sub>などの値を設定することにより、環境をコントロールし、生育のコントロールが可能。
- ・ 環境データの蓄積を行うことにより、栽培ノウハウの蓄積、従業員への栽培情報の共有化が図られる。

## ■ 課題・留意点

- ・ 比較的安価設定だが、便利なオプションを色々と追加すると、高額になってしまうので、コストを見ながら経営に必要な部分を選択する必要がある。

## 使用者の声

佐野市 高橋 俊博さん

(株) あいファーム高橋

いちご 22.8 a 花卉 30 a、水稲 8.7 ha、ビール麦 14 ha

〔導入機器〕 A 農業クラウドサービス アグリネット (ネポン (株))

平成 26 年に新規にイチゴ栽培を始めるにあたり、ハウス環境のデータ収集が必要と考え、ハウス環境の「見える化」と「監視と警報」を目的に、比較的安価で導入できる同機械の導入を決めた。

機械では、温度、湿度、CO2 濃度を測定し、設定した数値に基づき、暖房機を稼働している。環境管理が可能になり、品質や収量も安定した。

近年では重油が高騰していることから、「適正な温度管理により無駄な暖房を抑えることができている」と高橋さんは話す。

「環境が見える化して自動制御されることは、経験が少ない者にとって強い武器になった。また、データの蓄積があるので、作物の状態を知る手がかかりとなり、次の計画を立てやすくなった」と話す。

最近では、「データ管理と共に、機械に頼りすぎず自分でも確認するようにしている」と話す。



(写真) モニタリングセンサー (計測機器)